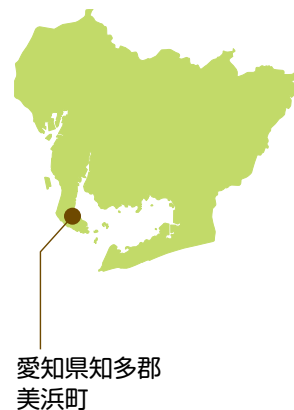


農事組合法人鵜の味

※2018年3月現在

代表者名	天木 英五	資本金	9百万円
設立年	1995年5月10日	売上高	333百万円(2016年8月期)
事業内容	生産(イチゴ、ミカン、ブドウ)、消費者直売、加工・製造、観光・交流、飲食、作業受託	経営規模	田0.3ha、畑4.8ha、樹園地1.5ha、作業受託(畑耕起)、生産施設8,500㎡、加工施設30㎡(寿司工房)、直売所356㎡(300種類)
従事者数	52人(うち女性45人。女性内訳:役員1人、管理職1人、常勤パート43人)		
女性活躍支援	[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援] 介護休業、短時間勤務制度等の措置 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレ・シャワー)、重労働等の業務改善		



経営概況

農事組合法人鵜の味は、愛知県知多郡美浜町にある観光農園である。

自然豊かな知多半島は、夏季は潮干狩りや海水浴、冬季は温泉など一年を通して観光客が絶えない自然豊かな地域である。同組合は国の天然記念物「鵜山鵜繁殖地」に近くにあり、「鵜が巣立つ」＝住んでみたい、食べてみたい、作ってみたい、をキーワードにした観光農園。農産物の直売をはじめ、観光農園(ミカン狩り、イチゴ狩り、ブドウ狩り、イモ掘り等)、農業体験施設、農園レストラン等の事業を営んでいる。2010年には農林水産省の「食と地域の『絆』づくり」の優良事例に、愛知県内で唯一選出された。



人員構成は、役員6名(うち女性1名)、正社員3名(うち女性1名)。常勤パート43名はすべて女性が占めている。

経営農地面積は田0.3ha、畑4.8ha、樹園地1.5haで、そのほかに直売所、生産施設、寿司工房を有している。

1. 経営者の理念・意識改革

組合のルーツは、代表理事の天木英五氏が1960年ごろに開業したミカン狩り園。その後、「自然と人と触れ合う楽しさを農家に伝えたい」との考えのもと、生活改良普及員の呼び掛けを受け、地域農家や町、地元観光施設長等も含めた勉強会を開始。その勉強会が母体となって組合が結成され、1996年2月に観光農園「ジョイフルファーム鵜の池」がオープンした。当地は過疎化という背景もあり、組合員や従業員の顔ぶれは、当初から近隣農家の女性が占めていた。

観光地での買い物の主力は女性である。また、家族が何を喜ぶのかも、女性がいちばん理解している。女性目線での直売や体験農園の運営をするために、女性スタッフの能力を活用できる環境整

備に尽力した。

一例を挙げれば、オープン当初のレストランは、商売慣れない主婦の家庭料理に過ぎず、赤字続きだった。しかし、地域の祭りで郷土料理の押し寿司に出合い「これなら皆が五つ星のシェフだ！」と気付き、お年寄りにレシピを聞いて売り出したところ大評判となった。

そんな取り組みが好循環を生み、入場者数は初年度（1996年）の14.6万人から、現在ではコンスタントに30万人以上に。売上も年間3億円台を堅持している。

2. 女性が働きやすい環境の整備

常勤パート43名は全員が女性なので、女性が働きやすい環境の整備に力を入れている。2室ある休憩室や屋内外のトイレ、シャワー室、また作業場の冷暖房、直売場のスポットクーラーなどを完備。特に目玉商品である箱寿司の工房は、現場の要望を吸い上げ、快適で清潔な設備を整えている。

また、直売場のレジにはいち早くPOSレジを導入。女性や高齢者でも無理なく作業できるよう、効率化・省力化を推進している。

女性が多い職場だからこそ、職場の雰囲気作りが最重要テーマである。天木氏の人柄もあり、普段から職場のコミュニケーションは活発で、困った事があれば気軽に相談できる環境となっている。また、年齢的に夫と死別した従業員も多いため、職場が過疎地集落における社交場の役割も果たしているとも言える。

3. 女性のスキルアップ

女性従業員は65歳以上が3分の1にのぼり、勤続20年以上のベテランも少なくない。そのため、現場では中心スタッフが主導し、自主的に適性に合った役割分担を行っている。

前述した押し寿司の製造販売はもちろん、農業体験では、田植えや稲刈り体験、そば打ち体験等を

主導。農園で作るイチゴやブルーベリー等を使った「鶏まージェラート」など新商品の開発にも取り組んでいる。組合員・従業員の女性が、事業に一体となって取り組み、全体のスキルアップを図っている。

また、先進地への視察や各種研修、勉強会は、自由に足を運ぶことができる。パートから社員への登用制度も利用されている。

4. 従業員に関わる制度

給与体系は就業規則に則り、正社員は昇級制、常勤パートは一律となっている。ただしパートは1日単位で能力給が加味され、その合計額が年2回のボーナスとなる。また長期勤続者には、10年間長期勤続表彰を行なっている。こうした取り組みが従業員のモチベーション向上につながっている。

休日は「地元役場（美浜町）と同程度」を指標にし、整備している。

高齢者中心の従業員構成にあって、正社員の24歳女性（農業高校を卒業して勤続6年目）など、次代を担う人材も育てている。そんな今後の将来も見据え、育児・介護休業規程も定めている。

なお、組合員は現在約150名（当初の5倍以上）を数え、うち7割は女性である。一人当たり平均で約130万円の収入を得ており、農村女性にとっては貴重な現金収入となっている。

審査委員の声

農業と観光を結びつけた取り組みに女性の活躍がみられる。押し寿司は絶品。高齢者が3割ほどいるが、その人たちなくしては現在の経営はなく長期勤続者の表彰も行っている。栽培部門の24歳の女性正社員は、作業の覚えも早くほとんどこなせる。今後結婚したり子供が生まれても、継続勤務してパートさんたちをまとめていって欲しいとのこと。代表の天木氏と女性との連携がよく取れていて素晴らしい。天木さんの大ファンになった。